

令和5年4月10日

氷見市長
林 正之 様



下十二町自治会長
三井 清三



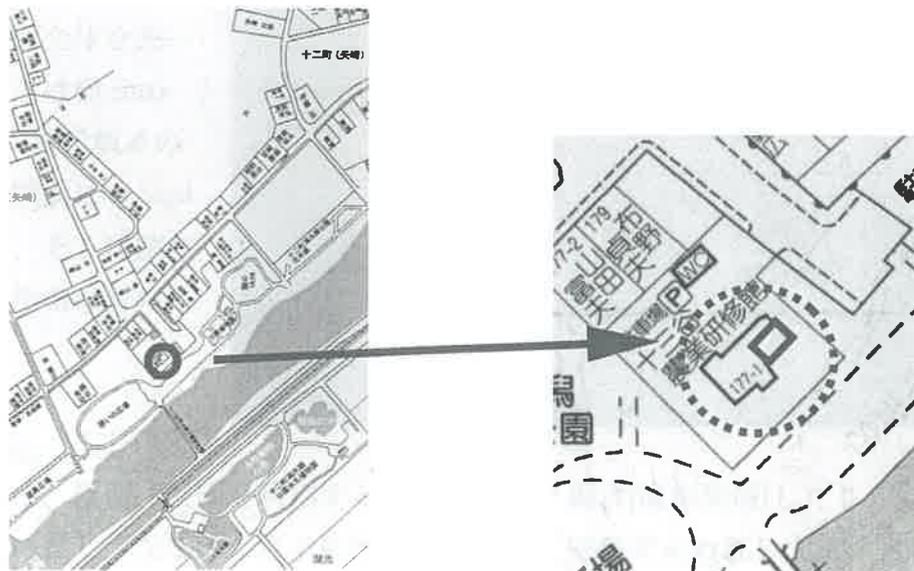
要望書(6)

十二町潟水郷公園・休憩所に「掲示板」設置について

春暖の候、日頃より大変お世話になり、誠にありがとうございます。

つきましては、十二町潟水郷公園に関する提案です。この水郷公園は下十二町地区にとっては中庭のような身近な存在です。今後、地元で水郷公園の潜在能力を引き出し、有効に活用していくことが求められていると認識しています。

そこでこのたびは、水郷公園内の十三谷農業研修館横の休憩所内に、「掲示板」の設置を要望いたします。掲示板を拠点に公園の利活用を促し、“下十二町らしい地域づくり”を進めるのが狙いです。つまり、十二町潟と水郷公園のブランディングを図りながら、地元でシビックプライドを醸成、交流人口の増加につなげる計画です。そしてこの計画は、既存の施設を使うことから、SDGsの限りある資源の有効利用とも整合性がとれています。





※十三谷農業研修館の右側に休憩所があり、その休憩所の利用者は、主に自販機の利用者のみに限られている。

掲示板設置の要望

「十三谷農業研修館」(十二町 177-1)に付属する「休憩所」内部に「掲示板」の設置許可と、休憩所内の自動販売機 1 台の設置場所の変更の 2 点を要望いたします。

掲示板の概要

★形態

新たに設置する「掲示板」は、休憩所内の正面、壁面全体を使います。広さは横 5m×縦 1.8m。掲示板そのものは、壁面にコンパネを張り、そこに貼り紙をする簡素なものにします。



★利用方法

掲示板は、原則、公園を利用する人は誰でも「掲示(情報発信)したり、見ることができ」る」ものにし、なるべく自由に使える案内板、壁新聞をめざします。実際に水郷公園

を利用しているのは、下十二町の住民だけではなく、上十二町や朝日丘、さらに万葉集のファンは全国からもやってきます。

★運営方法

掲示板の扱いは、一般に野菜や果物などの生鮮品の売場と同じです。賞味期限が過ぎると外して別の情報を貼るなど、掲示のサイクルを重視します。八百屋や魚屋の店頭のような感覚で新鮮さの維持・管理を行ないますが、これを担当するのは下十二町の自治会です。また、掲示板の管理・運営には、できるだけ手間ひまをかけないようにします。



※写真右側の後方に見えるのが公共トイレ。自販機の利用の観点からみると、休憩所の右横(PLガスポンベ)に自販機を置くのがベスト。現在の位置では、トイレ休憩で訪れた人が自販機を見逃すケースがある。休憩所のなかに置くのは、飲み物の販売面からみても賢明ではない。また、自販機を休憩所内の横に移動させても、現在よりも飲み物の販売は増えると思われる。なぜなら、掲示板があることで、休憩所内に入出入りする人の数そのものが増え、自販機に接する機会も増えるからである。

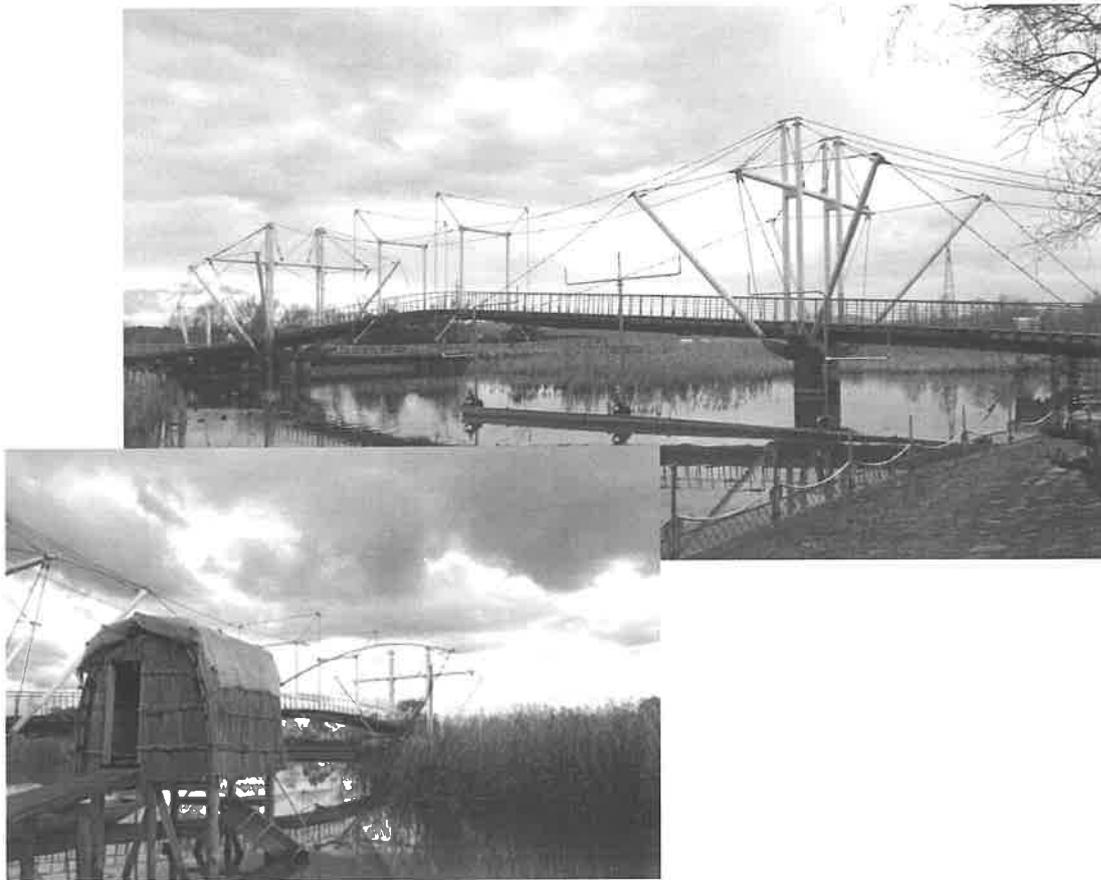
掲示板設置の背景

★既存施設の有効利用★

水郷公園を訪れる人はさまざまです。散歩、健康ウォーキング、憩いのひとときを求めて、親子連れ、夫婦連れ、トイレ休憩、万葉集のファン…、「さまざまなところから、さまざまな人が、さまざまな目的で」この水郷公園にやってきます。そしてまた、下十二町地区にとっては、この水郷公園が唯一貴重な「憩いの場」、「交流の場」、つまり地域活動のよりどころになっています。

このような水郷公園の玄関口にあるのが十三谷農業研修館横の休憩所です。現在は自販機が1台、床の間の置物のように正面に寂しく置かれているのみです。休憩所の利用者の多くは、飲み物を求めて出入りする人に限られ、建物があまり有効に生かされているようには見えません。

そこで、休憩所内に掲示板を設け、公園を訪れる人々に対して情報発信と交流促進を促す場として、有効に使っていきたいと考えています。



3つの情報発信と交流促進

★実用的な情報

掲示板に貼り出す情報は、人に迷惑をかけない内容であれば、原則なんでも紹介していきます。その内容は主に3つに分けることができます。

一つは、地域住民に役立つ実用的な情報です。「犬が生まれたので誰かもらって頂けませんか」、「○×△イベントに参加しませんか」、「不用品を無料で引き取ってもらえませんか」、あるいは、各地のマルシェやフリーマーケット情報といった、生活に密着した内容です。また、自治会や行政からの連絡事項、ポスター・回覧チラシ類、「ひみ広報」でも地元役立つ内容を掲示していきます。新鮮で役立つ情報を提供し、気分転換やウォーキングなどで水郷公園を訪れた人が、必ず立ち寄りたくなるような、そんな公園のスポットにしたいと考えています。

★水郷公園の情報発信

二つ目は、十二町瀉と水郷公園の情報発信です。これは瀉や公園を地域資源と捉えてブランディングを図るもので、市外からの来場者を増やすために欠かせないものです。具体的には、オニバス、野鳥観察、水生植物、十二町瀉の風景など、四季折々の情報を発信していきます。「一度は行ってみたい、また行ってみたい」といった水郷公園をイメージしています。ネットなどの展開と併せて進めます。

★全国万葉ゆかりの地との交流

三つ目は、「布施の湖」の十二町瀉の特色を生かし、全国の万葉集ゆかりの地を対象にした交流計画です。休憩所内の掲示板に、全国の万葉集ゆかりの地で作ったポスターや、案内のチラシ類を適宜貼って紹介するものです。

つまり、掲示板に市外との交流機能をもたせます。同時にまた、氷見市でも「布施の湖」のポスターとチラシを制作し、交流先の施設に貼り出して紹介してもらおうネットワーク化を図ります。十二町瀉や水郷公園、氷見市のPRにつながるもので、さしあたり「全国万葉故知サミット」参加11自治体はその交流先の候補になります。



例えば一例あげると、「奈良県立万葉文化館(明日香村)」のロビーのいちばん目立つ場所に「布施の湖」のポスターを貼ってもらい、館内にチラシも置いてもらいます。当然、先方のポスターも公園の休憩所に貼ることになり、いわば物々交換です。奈良の明日香村の施設は、沖縄から北海道までコアな万葉集のファンなら一度は訪れるその道の聖地です。全国から同館にやってきた入館者たちは、ロビーに貼られた布施の湖のポスターに目がとまります。「布施の湖?」、ああ大伴家持ゆかりの湖沼か、「場所はどこ?」、富山県の氷見市?、富山なら立山黒部アルペンルートか金沢、白川郷、高山にでも行ったときに氷見にも寄ってみるか…とんとん拍子に十二町瀉の水郷公園にも足を運んでもらえることになります。万葉集のファンの習性として、努力をいとわないマニアックな方が多いとの定説です。よって氷見市には、魅力的な「布施の湖」のポスターとチラシをつくって頂くことを要望します。

掲示板の力 + 十二町瀉水郷公園

★シビックプライドの醸成

芝生には「人をボールと遊ばせる力がある」と言われるように、掲示板にもまた情報伝達という本来の機能以外に、さまざまな働きがあります。

そのなかでもこの掲示板に期待するのは、下十二町としての「アイデンティティ(自分の価値を他者に認められること)」の構築による「シビックプライド」の醸成です。

シビックプライドは「都市に対する市民の誇り」だとされます。下十二町の住民が、地元に対して心から誇りが持てるような場、シビックプライドを育む場として、十二町瀉水郷公園と休憩所の掲示板を機能させていく考えです。

実際に「地域を愛し、その地域をより良くしていこう」というシビックプライドの下敷きがあつてこそ、はじめて地域の活性化、地域づくりにつながるものです。従って、地域社会にあつては大切な基礎的な資源といえるものです。

★「来場者ボード」で気付きを

観光施設や文化施設にはよく、その施設の印象や感想を自由に書き留める「来場者ノート」が置かれていたりします。シビックプライドを育む方法として、この来場者ノートを応用します。

水郷公園ではノートに書くのではなく「感想ボード」として、掲示板を使ってそれを展開します。公園を訪れる利用者に、この公園や十二町瀉の感想や意見をメモ用紙に書いてもらい、それを掲示板に貼り出します。そして地元の住民にも広く見てもらえるようにします。十二町瀉や水郷公園についての声が聞ける場です。

水郷公園を客観的に見直す

自分で自分の本当の姿が見られないように、地元の住民は地元のことを客観的に理解判断するのが予想外に難しいものです。他人の目から十二町潟や水郷公園を見てもらうことで、ひいては下十二町地区の姿が見えてくるような仕掛けを掲示板の「感想ボード」にもたせます。外から見て感じる水郷公園と、地元の人が思っている水郷公園とのあいだには、おそらく相違があると思われます。それを正しく認識することから、次へのステップが可能になると思います。

これまで、このような外から水郷公園についての意見や感想を聞く機会、つまり「気付き」の場が下十二町地区にはありませんでした。それが掲示板によって可能になります。交流には、言葉による直接の交流もあれば、SNS といったものもあります。そしてまた掲示板を介した交流もあります。これによって地元住民にも公園への関心や利用が一層増え、水郷公園、ひいては地域にシビックプライドが育ちます。

水郷公園を中心とした下十二町の地域づくり

水郷公園の玄関口にある下十二町では、この公園を中心にした地域づくり、まちづくりがもっとも道理にかなっていると思います。“掲示板を備えた公園の休憩所”から新しい“下十二町物語”が始まることを希望します。

